

下長橋遺跡 発掘調査報告書

1988

山形県
山形県教育委員会

しも なが はし
下 長 橋 遺 跡
発掘調査報告書

昭和63年3月

山 形 県
山形県教育委員会

序

本報告書は、山形県教育委員会が昭和62年度に実施した鮎海郡遊佐町下長橋遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。

発掘調査では平安時代の建物跡をはじめとする集落に係わる多数の遺構や遺物が検出され、古代出羽の国にかかる貴重な手がかりを得ることができました。

これらの文化遺産は、私達の祖先が自然環境と歴史の中で創造し、育んできたものであります。これらを理解し、愛護することは、祖先の歴史を知ると同時に、今日の文化を見つめる事にもなるものと思われます。現代に生きる私達は、これらを長く後世に伝え残して行くことが重要な責務であります。

近年、県内各地での開発事業が増加するに伴い、埋蔵文化財とのかかわりも増加の傾向にあります。この両者の間には、困難な問題も山積の状況であります。生活文化を向上とする同じ立場から諸問題を調整し、今後とも埋蔵文化財保護のために努力を続けてまいります。

最後になりましたが、調査にあたって多くの御協力をいただきました地元の方々をはじめ、遊佐町、遊佐町教育委員会、庄内教育事務所、庄内支庁経済部最上川右岸土地改良事務所、月光川土地改良区他関係各位に対し、心から感謝申し上げるとともに、本書が埋蔵文化財の理解を深めその保護普及の一助となれば幸いと存じます。

昭和63年3月

山形県教育委員会

教育長 小野 孝

例　　言

- 本書は山形県教育委員会が、山形県農林水産部の委託を受けて、昭和62年度に実施した県営灌漑排水事業（月光川地区）に係る下長橋遺跡（県遺跡地図番号2182）の緊急発掘調査報告書である。
- 発掘調査は昭和62年10月26日から同年11月20日までの延18日間実施した。
- 発掘調査の体制は、調査主体を山形県教育委員会、調査担当を山形県埋蔵文化財緊急調査団、調査担当者は主任調査員佐々木洋治・佐藤庄一・野尻 倭、現場主任を野尻倭、調査員を伊藤邦弘・庄司 功・月山隆弘・黒坂雅人が担当した。
- 本書の作成は、野尻 倭、伊藤邦弘が担当し、編集を野尻 倭・長橋 玉が担当し、佐々木洋治が総括した。

凡　　例

- 本書で使用した遺構の分類記号は、S B…建物跡、S K…土壙、S D…溝状遺構、E B…柱穴・礎石、S X…性格不明遺構にした。遺物については、R P（土器・土製品）、R W（木器・木製品）、R M（金属製品）である。
- 遺構実測図は、1/40～1/160他の縮図で採録し、遺物実測図・図版は原則的に約1/3で採録し各挿図毎にスケールを付した。
- 遺物番号は、実測図・観察表・図版ともに共通したものとした。

目　　次

I 調査に至る経緯	1
(1) 調査に至る経過	1
(2) 調査の経過	1
II 遺跡の立地と環境	3
(1) 遺跡の立地	3
(2) 周辺の遺跡	3
(3) 遺跡の層序	3
III 遺構	5
IV 遺物	9
V まとめ	12

付　　表

表1 下長橋遺跡と周辺の遺跡	2
表2 出土遺物計測表	13

挿図目次

第1図 下長橋遺跡位置図	2
第2図 下長橋遺跡全体図	4
第3図 層序図	5
第4図 A区遺構配置図	7
第5図 S B 100 建物跡	8
第6図 出土遺物(1)	10
第7図 出土遺物(2)	11
第8図 出土遺物(3)	12

図版目次

図版1 遺跡近景・調査風景	14
図版2 調査区全景(A区)・遺構検出状況(A区)	15
図版3 S B 100 建物跡・E B 3・5・6・8 級石	16
図版4 調査区全景(B区)・(C区)	17
図版5 遺物出土状況	18
図版6 出土遺物(1)	19
図版7 出土遺物(2)	20
図版8 出土遺物(3)	21

I 調査に至る経緯

(1) 調査に至る経過

庄内平野の北部飽海地区は東方に位置する鳥海山から西方に延びるなだらかな丘陵地帯と、出羽丘陵北端部の間を西流する月光川は、日本海沿岸の砂丘地帯までに肥沃な沖積平野を形成している。今年度10月国会において昭和62年度国家予算による大型補正予算が決定し、山形県ではそれに伴い各種の公共事業が行なわれ、昭和62年10月、県農林部より月光川地区における県営灌漑排水設置を計画、県教育委員会では、昭和63年度に実施される農林事業関係の遺跡詳細分布調査と合せて、同事業に係る遺跡詳細分布調査を実施した。その結果、JR羽越本線と交差する大堰を中心とした、東西約300m、南北約450m（135,000m²）に広がる大きな面積を有する遺跡として確認された。

この調査結果に基づき、山形県教育委員会では、文化財保護の立場から県農林水産部、遊佐町教育委員会等、関係諸機関と協議を重ねた結果、昭和62年度に緊急発掘調査を実施し、記録による保存を図ることとなった。

調査は山形県教育委員会が主体となり、山形県埋蔵文化財緊急調査団が調査を担当することとなった。調査の期間は昭和62年10月26日から同年11月20日までの延18日間実施した。

(2) 調査の経過

調査は、はじめに遺跡全域を包み込むように5m×5mを1単位とするグリッド設定を行なった。基準線は現況水田の南北線に合わせ、Y軸とした。磁北との方向は、N-35°-Wを測る。X軸はそれに直交する。次に1m×5m、1m×3mを基本とするトレーナーを設定し掘り下げ、遺跡までの深さや遺構・遺物の集中する箇所を確認した。その結果、調査区の西北に遺構・遺物の集中箇所がみとめられた。そこでこの西北に幅10m、長さ70mの調査区を設け、A区とした。統いて、幅4mで南北に設定した調査区をB区、A区の南に幅2mで設定した調査区をC区と呼称することとして、各々重機械による表土除去を行なった。A区は816m²、B区は264m²、C区は122m²の面積を拡張した。延調査面積は、1,217m²である。

その後は各区毎に順次手掘りで少しづつ掘り下げを繰り返しながら、土層の観察、遺構・遺物の確認を行ない、写真・図面等の記録を行なった。

A区では、1回目の面精査の後、北西に広がる黒色土を掘り下げ、下層から検出された土壌・溝状遺構・建物跡等の精査・記録を行なった。なお東側からは、遺構・遺物共に、みとめられなかった。B区、C区も同様に、遺物の出土は、ほとんどなく、遺構もみとめられなかった。



第1図 下長橋遺跡位置図 (S = 1 : 50,000)

表1 下長橋遺跡と周辺の遺跡

遺跡名	種別	時代	遺跡名	種別	時代
1 下長橋遺跡	集落跡	平安末 - 鎌倉	12 水上A遺跡	販布地	平安末 - 鎌倉
2 前田遺跡	〃	平安	13 水上B遺跡	〃	〃
3 地正面遺跡	〃	〃	14 水上C遺跡	集落跡	〃
4 田遺跡	〃	〃	15 小深田遺跡	〃	平安
5 佐渡遺跡	〃	〃	16 宅田遺跡	〃	興文・平安末 - 鎌倉
6 水尻遺跡	〃	平安末 - 鎌倉	17 渡中A遺跡	〃	平安末 - 鎌倉
7 大穂遺跡	城館跡	鎌倉	18 渡中B遺跡	〃	興文・平安末 - 鎌倉
8 長田遺跡	集落跡	平安末 - 鎌倉	19 上高田遺跡	〃	平安末 - 鎌倉
9 横須遺跡	〃	〃	20 木戸下遺跡	〃	〃
10 村前遺跡	〃	〃	21 豊林A遺跡	集落跡・廻廊跡	興文・平安
11 山遺跡	〃	〃	22 豊岡餘跡	館跡	平安以降

II 遺跡の立地と環境

(1) 遺跡の立地

出羽山地北端部、鳥海山麓との間を西流する月光川は庄内平野北部に広大な沖積地を形成する。沖積地は平野部となり、自然堤防・後背湿地・狭義の河間低地を含む庄内北部河間低地と呼ばれ、(山形県、土地分類基本調査吹浦1978)、本遺跡は月光川左岸に広がる河間低地に立地に、標高は約11mを測る。遺跡の立地する周辺は、現在見られるように平坦な地ではなく、調査の所見では、遺跡全域での地盤が高く、シルト・粘土を基本としている。しかし、遺跡東側はグライ化が強くなり、旧来からの低湿地であったことが判明している。

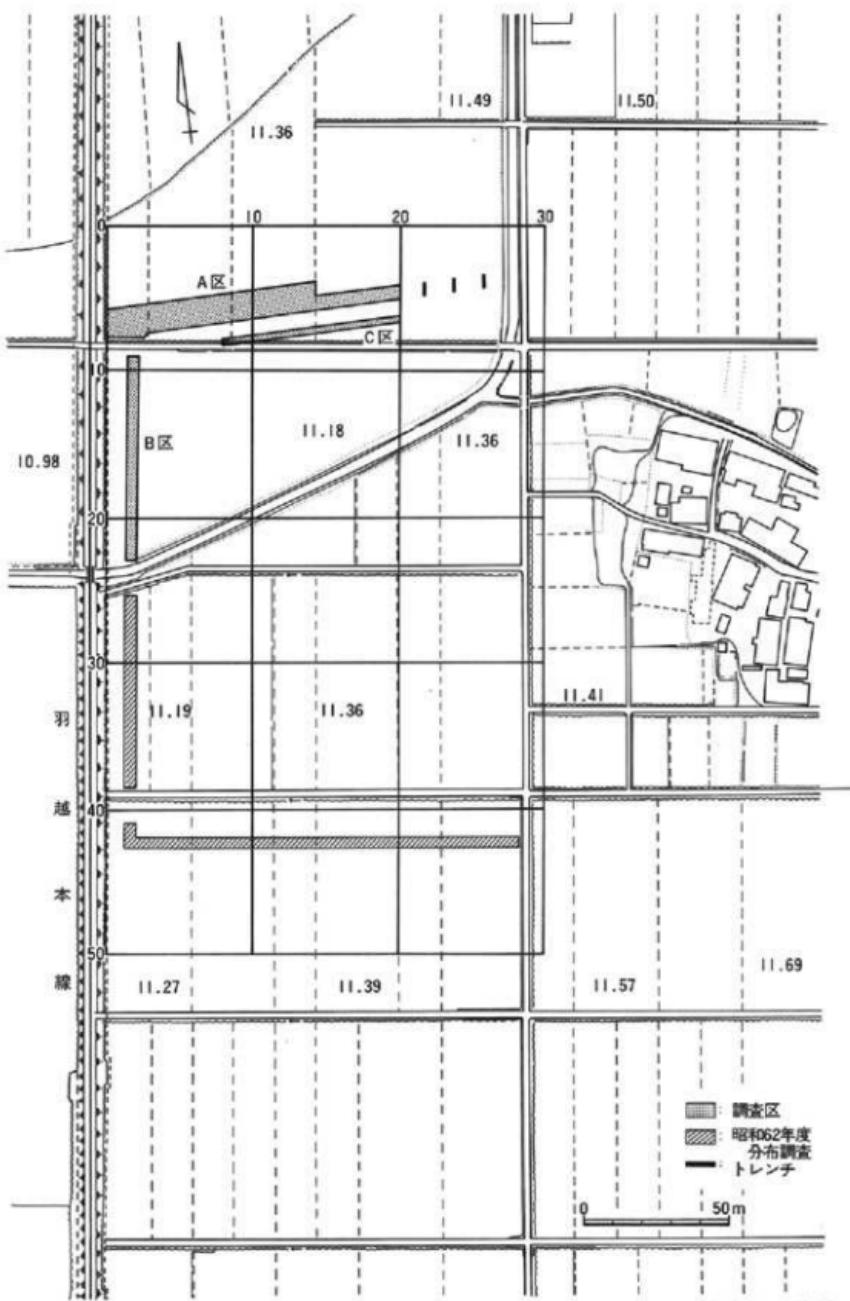
(2) 周辺の遺跡

遊佐町には本遺跡をはじめ、167ヵ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されています。時代的には旧石器時代から江戸時代までの長い時間にわたる。北方の鳥海山から延びる台地上には、昭和28年に県指定史跡となった吹浦遺跡(縄文時代前期)や旧石器時代の遺跡も多く存在し、平野部や川筋には平安時代から鎌倉時代の遺跡が点在し、山麓部には館跡や窯跡が確認されている。隣接する遺跡では、下小松地内に位置する前田・地正面・佐渡・塚田の4遺跡があり、昭和52~54年の間に5次にわたって調査が実施されている。

(3) 遺跡の層序

下長橋遺跡を覆う表層の土質は、主に微砂、シルトからなる沖積土壌である。試掘調査の結果から遺跡範囲東側や中央部は湿地化していたことがうかがえる。また分布調査の結果から、南側にも遺構・遺物がみとめられており、遺跡は微高地に点在することが考えられる。遺構検出面までの深さは約60cmを測る。なおA区北と、B、C区では、異なった層序を示す。B・C区はII層が厚く堆積し、いわゆる遺物包含層はみとめられない。第3図は、A区北壁と5~7グリッド黒色土の南北断面図である。土層注記は以下のようになる。

A区北壁土層注記		5~7グリッド土層注記	
I	10Y R3/2 黒褐シルト(耕土)	1	10Y R5/2 灰黄褐色砂
II	5G 5/1 緑灰シルト	2	10Y R3/1 黒褐 微砂(炭化粒、土器片含む)
III	10Y R1.7 黒 微砂(炭化粒、土器片多量含む)	3	10Y R4/1 緑灰 微砂(炭化粒、土器片含む)
IV	10Y R5/1 褐灰 微砂(炭化粒、土器片含む)	4	10Y R5/2 灰黄褐色砂(炭化粒微量含む)
V	10Y R5/2 灰黄褐色砂(炭化粒微量含む)	5	10Y R2/1 黒 微砂(炭化粒微量含む)
VI	10Y R5/1 褐灰 微砂(炭化粒含む)	6	10Y R4/1 褐灰 微砂(炭化粒、土器片少量含む)
VII	10Y R5/1 褐灰 微砂	7	10Y R2/1 黒 微砂(炭化粒多量含む)
VIII	10Y R4/1 褐灰 微砂(炭化粒少量含む)		
IX	10Y R4/1 褐灰 微砂(炭化粒多量含む)		
X	10Y R5/2 灰黄褐色砂		
XI	10Y R1.7 黒 微砂(炭化粒、土器片多量含む)		
XII	10Y R2/1 黒 微砂(炭化粒、土器片多量含む)		
XIII	10Y R4/1 褐灰 微砂(炭化粒多量含む)		
XIV	10Y R4/1 褐灰 微砂(炭化粒少量含む)		



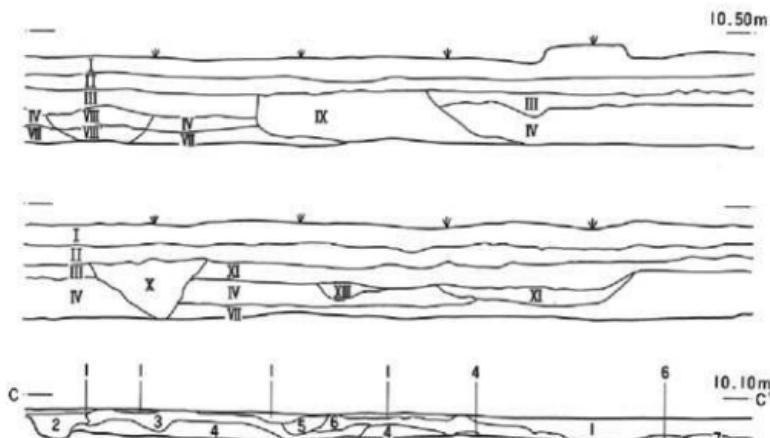
第2図 下長橋遺跡全体図

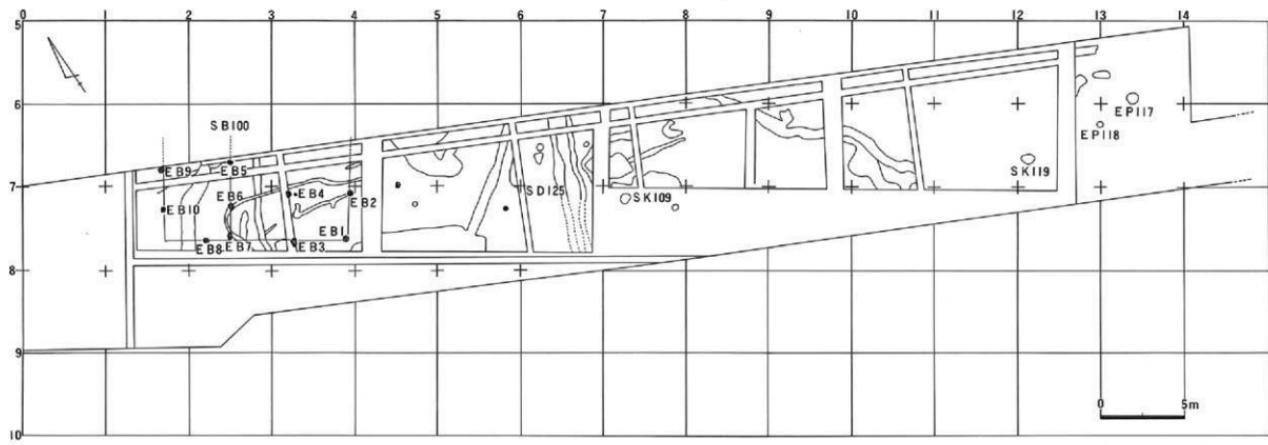
III 遺構

今回の調査では、A区にのみ遺構が検出された。検出した遺構は、礎石建物跡1、土塙2、溝状遺構12、ピット7である。なお1回目の面整理では、表土下約60cmから炭化粒と土器片を多量に含む黒色土の広がりが検出された。この黒色土はA区北側ほぼ全域に、不整形の広がりを持つ。範囲は東西約70m、南北約8mである。中からは、赤焼土器を中心とする土器片が多量に出土し、その大半は復元不可能な小片である。窪地に流れ込み、堆積したものと考えられる。これ等の黒色土は、西からSX 101~116とし遺物を取り上げ、約20cm掘り下げることにより、遺構が検出された。

S B100建物跡（第5図、図版3）

A区北西から検出された礎石建物跡である。2間×3間まで検出され、調査区外北へ延びることも考えられる。南北線は磁北より33°東へ傾く。柱間距離は、南北2.1m~2.7m、東西3.7~4mを測る。礎石は径30~40cmの丸石を用いている。掘り方は明確でなく、根固めの石もみとめられなかった。関連した遺物の出土はなく、時期詳細については不明である。しかしSD 121、123溝状遺構が、EB 2、6礎石によって切られているため、これらの溝状遺構よりは新しくなるものと考えられる。





第4図 A区造構配置図

S K109 土壙

A区8-7グリッドに位置する。径約60cmを測る、ほぼ円形の土壙である。深さは21cm
覆土は1層からなる。出土遺物はない。

S K119 土壙

A区13-6グリッドに位置する。短径約60cm長径約80cmを測る楕円形の土壙である。深
さは22cm、覆土は1層からなる。出土遺物はない。

S D121 溝状遺構

A区3-7~8グリッドに位置する。長さ約10m、幅約12cm、深さ約8cmを測る。覆土
は1層からなり、赤焼土器細片が出土している。

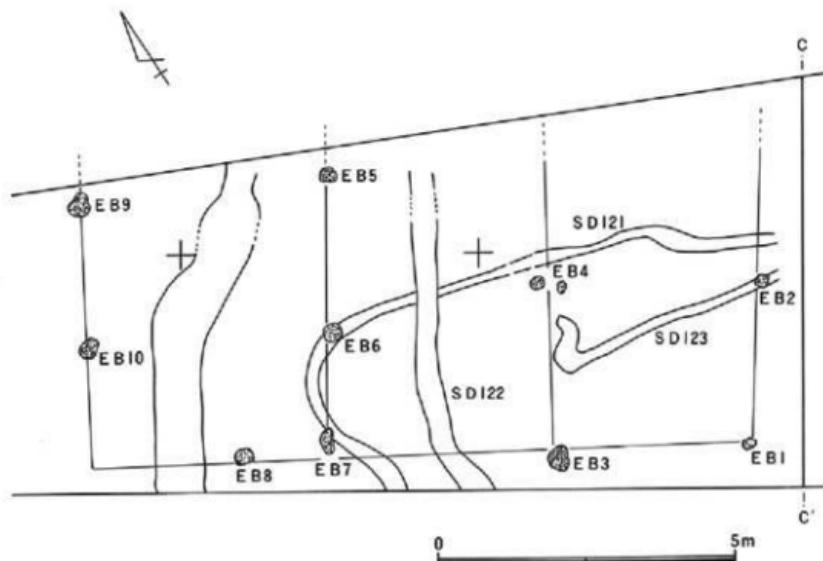
S D125 溝状遺構

A区7-6~7グリッドに位置する。長さ約10m、幅約30~60cm、深さ約10cmを測る。
覆土は1層からなり、RP34、41の赤焼土器等最もまとまった遺物が出土した遺構である。

E P 8、117、118、他

径約30~40cm、深さ約10~20cmを測る。いずれのピットもアタリはみとめられなかった。

以上が主な遺構である。SB100建物跡を除いた他の遺構は、ほぼ同時期と考えられ、
10世紀後半から11世紀の所産であると考えられる。



第5図 SB100建物跡

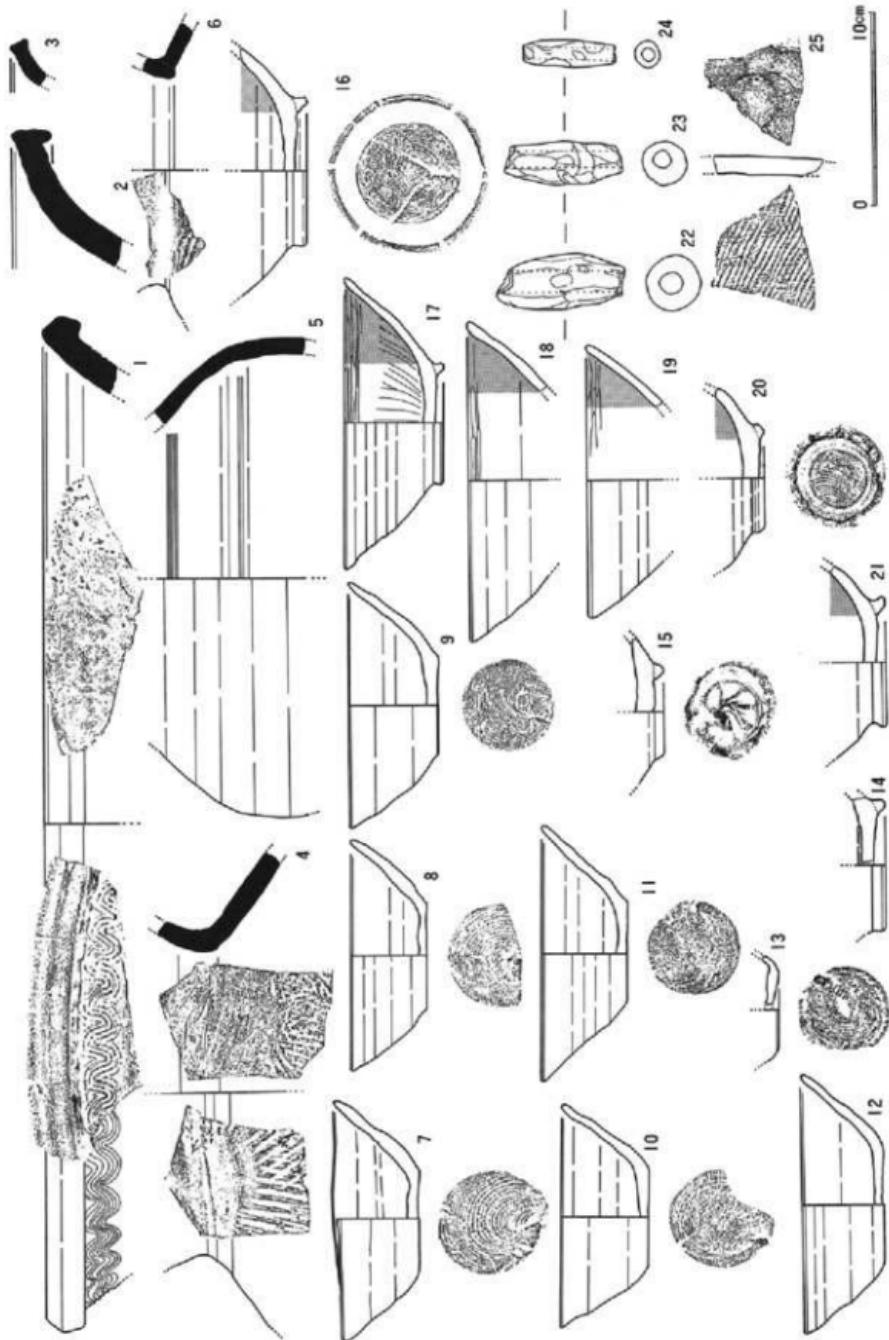
IV 遺 物

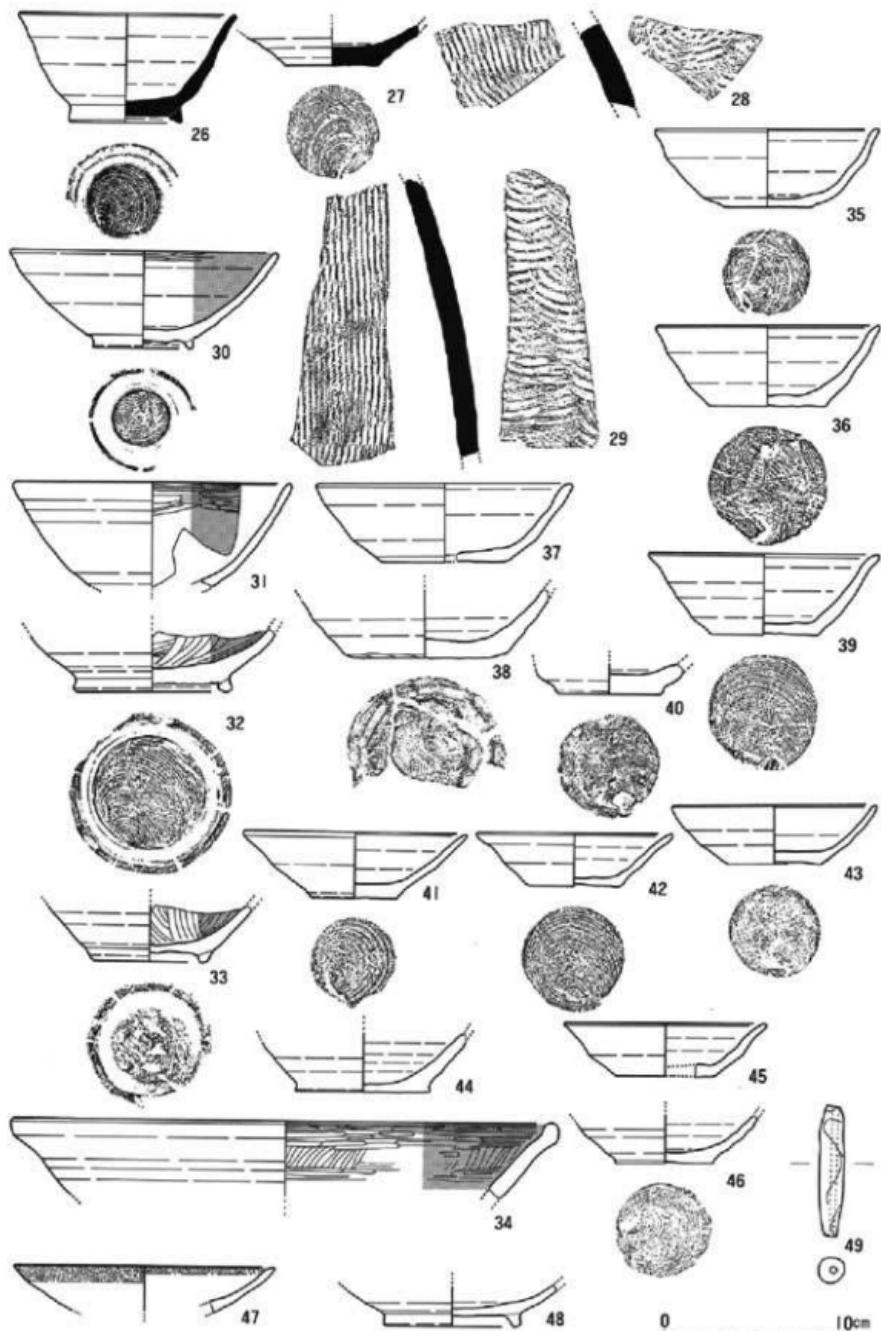
本遺跡の調査で出土した遺物は土器が整理箱にして34箱、木・石製品が1箱などである。遺物は調査区域としたAトレンチから多く出土しており、検出された遺構の分布状況と軌を一にする。土器の種別は、土師器・須恵器・内黒土器・赤焼土器・中世陶器で図化した主な遺物は表2に明示している。最も多く出土したものが赤焼土器で総数、15059点を数える。出土土器の時期的な特徴として古代平安期の出土量が多く、遺跡の性格を示している。器種別では、甕・壺・壺・高台付壺・壺・かわらけ皿である。土器以外では土錐・錢貨・漆器・砥石等である。

調査における分布状況では、遺跡中央部に集中する傾向を示し、Aトレンチとしたトレンチの西半部に集中している。またAトレンチ東側は除々に第IV層の青灰色シルト層が傾斜し、泥炭層が厚く堆積していく。Bトレンチでは遺物の出土も少なく、遺構もそれに伴い検出されなかった。ここでは、遺構内出土の遺物を中心に記述し、包含層出土のものについては、本遺跡の性格・内容を示す遺物を図化し、その他については点数を数えただけで、大部分は割愛した。以下に検出遺構毎に提示した土器について記述する。

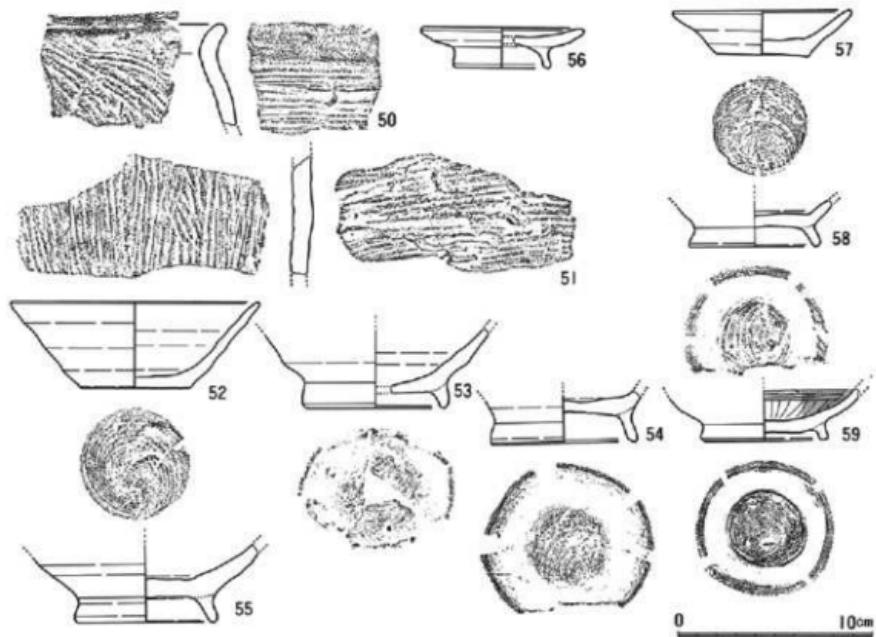
S X 101 性格不明の遺構からは第6図3・4の須恵器片が出土している。3は變形土器の口縁部細片で、法量は計測出来なかった。4は須恵器變形土器の頸部である。外面に条線状の叩き目とアテ痕を明瞭に残している。S X 102性格不明の遺構からは1の須恵器大甕の口縁部片、18・20・21の内面を黒色化処理された壺(18)、高台付壺(20・21)である。口径に比し底径の小さいもので、時期は10世紀後葉頃と推測される。S X 103性格不明の遺構からは25の中世陶器甕片が出土した。表面に条線状叩き、裏面に円形のアテ痕を残し、珠珊瑚系陶器である。S X 104遺構からは、2・6の須恵器甕口縁部(2)、頸部(6)、赤焼土器壺(9)、土錐(23・24)が出土している。S X 105遺構からは5の須恵器壺胴部、10~12、15・44の赤焼土器、19・32・33の内黒土師器、47・48の灰釉陶器が出土している。壺(10~12)は口径対底径が約2分の1で身の高い器形で、ロクロ痕を明瞭に残す。底部の切り離しは糸切りである。47・48は、同一個体と考えられる灰釉陶器である。口唇部外面に灰釉がけを施す皿形の器形と考えられる。S X 108遺構からは、28・29の須恵器甕片、35・36の赤焼土器壺片、49の土錐が出土している。須恵器は、外面を格子目状の叩き、内面を青海波アテ痕で叩きしめている。S X 110遺構からは、26・27の須恵器壺、37~43、45・46の赤焼土器壺、50・51の土師器甕、59の内黒土師器が出土している。溝状遺構からは、8~14の赤焼土器、17の内黒土師器がS D 125から出土し、22の土錐がS D 126から出土している。全体的な傾向では、S XやS Dからの出土土器は平安時代10世紀の様相を示している。

第6図 出土遺物(1)





第7図 出土遺物 (2)



第8図 出土遺物(3)

V まとめ

今回の発掘調査によって検出された遺構には、礎石建物跡と考えられる配置された石組と、溝状遺構・土壤・ピットなどである。礎石をもつ建物跡と考えられる遺構は、現水田面下20~25cmの面で検出され、一部礎石と考えられる自然石が、やや規則的にならんで検出していた。しかし、黒色土層中からの検出でそのすえ方も明確に出来なかった。建物跡として断定するにはやや不足しているがここでは建物跡しておく。今後の検討を要する。

遺構の中で、SXとした遺構が数多く検出されている。第III層の黒色粘質土上面で、炭化物や、土器片が多数含む部分が複雑に組みこんでおり、面的に精査した時点でその境堀を示したものである。黒色土中には完形の土器や、破片がかなりまとまって検出しており性格不明の遺構として登録したが、遺物の出土状況が、不規則であり、かなり離れた地点から出土している土器片が接合するものがある。検出した黒色土層の性格を更に検討する必要がある。出土遺物の検討では、SX 110とした性格不明の遺構から土師器窯片が出土している。この遺構内からは多量の赤焼土器壺も出土しており、時期の検討から10世紀後半より下る様相を示していない。土師器は流れこんだものと考えられる。

本遺跡の全体的な時期としては平安時代10世紀中葉から後葉にかけてと推測される。

表2 出土遺物計測表

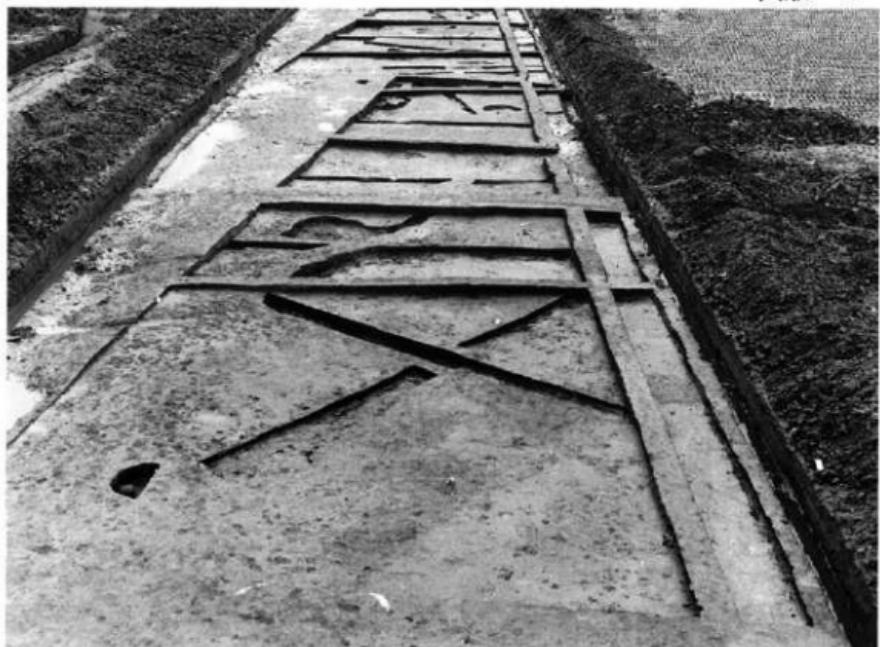
図 版



遺跡近景



調査風景



調査区全景(A 区)



遺構検出状況(A 区)



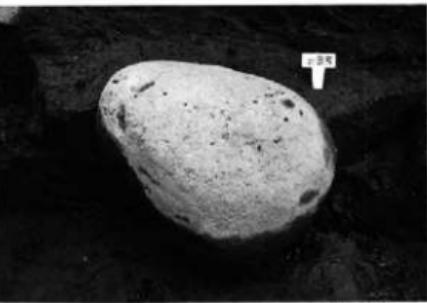
遺構検出状況(A 区)



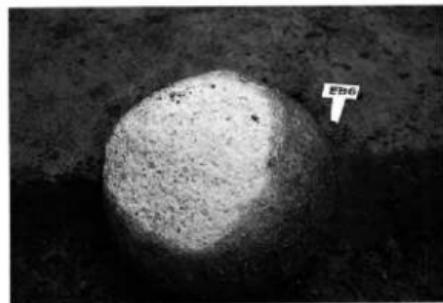
S B 100建物跡



EB 3 環石



EB 5 環石



EB 6 環石



EB 8 環石



調查区全景(C区)

調查区全景(B区)





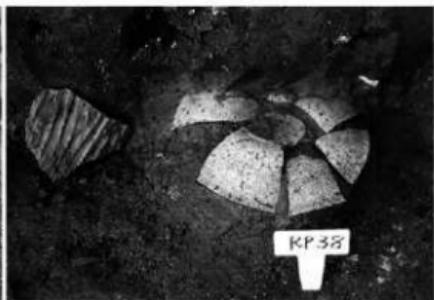
R P 4



R P 31



R P 37



R P 38



R P 39



R P 43

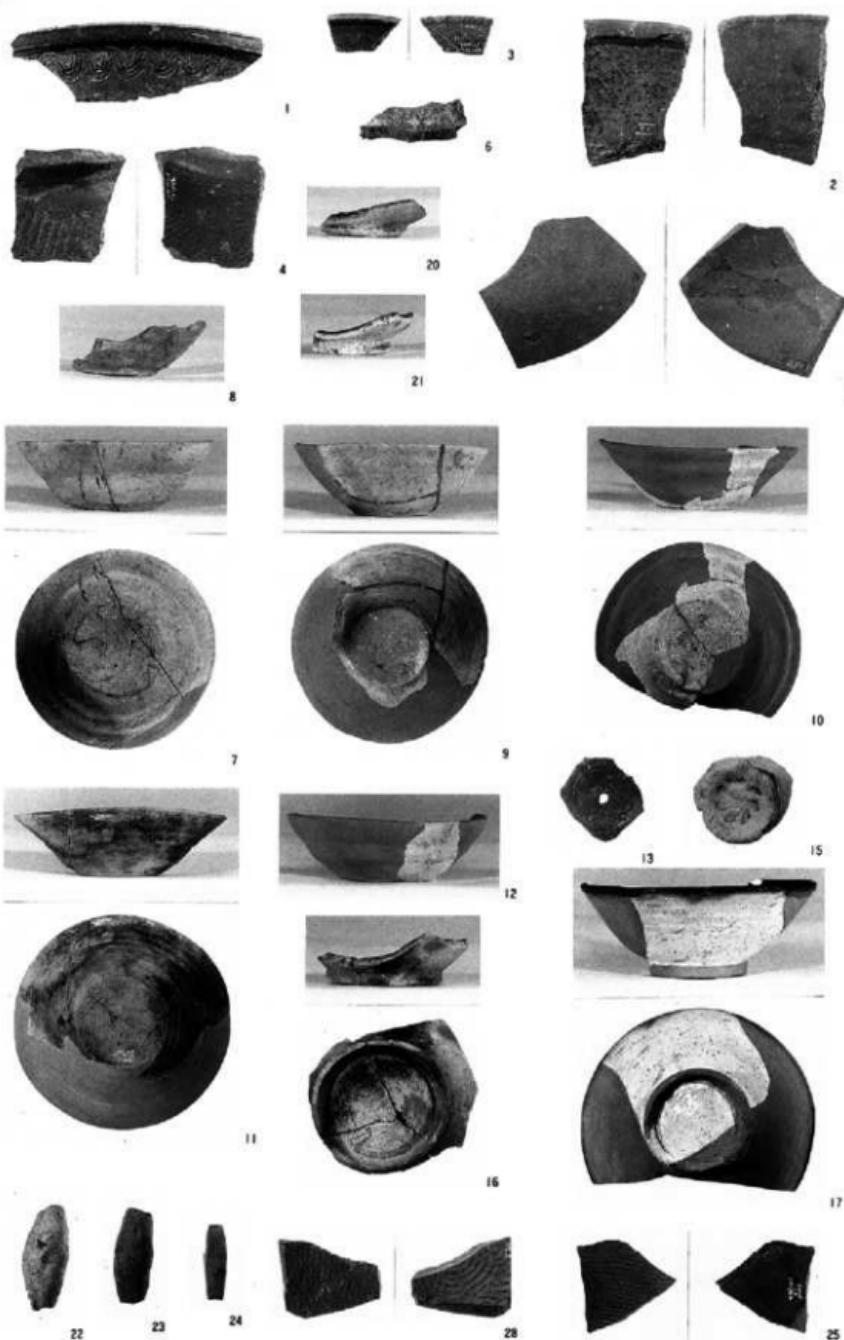


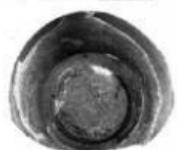
R P 44



R P 45

遺物出土状況





26



27



28



30



31



34



36



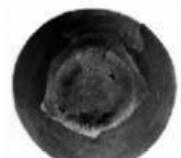
35



39



41



42



43



38



37



40



44



45



46



48



49



50



51



52



54



53



56



55



58



59

出土遺物（3）

山形県埋蔵文化財調査報告書第130集

しも なが はし
下長橋遺跡

発掘調査報告書

昭和63年3月25日 印刷
昭和63年3月30日 発行

発行 山形県教育委員会
印刷 山形印刷株式会社